

令和元（2019）年度
 全国高等学校農場協会近東支部大会
 近畿・東海地区高等学校農業教育研究大会
 開催概要

- 1 目的 高等学校における農業教育の充実と振興を図るため、教育現場の諸問題について、農業教育関係教職員が総合的な視野と専門的な立場から研究協議を行う。
- 2 大会テーマ 「農による学びで人をつくる」
 ～農業教育で未来を担う多様な生徒をどう育てるのか～
- 3 主催 全国高等学校農場協会近東支部 全国農業高等学校長協会近畿支部・東海支部
 大阪府高等学校農場協会 大阪府農業教育研究会
- 4 後援 全国高等学校農場協会
 愛知県教育委員会 岐阜県教育委員会 三重県教育委員会
 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 兵庫県教育委員会
 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 大阪府教育委員会
 大阪府環境農林水産部 大阪実業教育協会 大阪府農業協同組合
- 5 期 日 令和元（2019）年 7月30日（火）～ 7月31日（水）
- 6 会 場 ホテルアウィーナ大阪
 〒543-0031 大阪府大阪市天王寺区石ヶ辻町19番12号
 TEL: 06-6772-1441 HP: <http://www.awina-osaka.com>
- 7 参加者 近畿・東海地区高等学校農業教育関係教職員及び教育委員会関係職員
 約250名を予定
- 8 大会日程

[第1日] 7月30日（火） 受付 12:00 ～ 12:50 開会式 13:00 ～ 13:40 分科会 14:00 ～ 17:00 教育懇談会 18:00 ～ 20:00	[第2日] 7月31日（水） 総会 9:00 ～ 10:15 農林水産省情勢報告 10:15 ～ 10:35 講演 10:40 ～ 12:00 昼食 12:00 ～ 13:00 講評 13:00 ～ 13:50 閉会式 14:00 ～ 14:30
---	---
- 9 講演 日本の山地酪農で未来をひらく 中洞 正（なかほら ただし）氏（予定）
- 10 講評 国立教育政策研究所教育課程センター
 文部科学省 初等中等教育局 参事官（高等学校担当）付
 産業教育振興室 教科調査官
 鈴木 憲治 氏（予定）
- 11 大会事務局 大阪府立農芸高等学校
 〒587-0051 大阪府堺市美原区北余部 595-1
 TEL: 072-361-0581 FAX: 072-361-0684 E-mail: kintou2019@gmail.com
 大会事務局長 大阪府立農芸高等学校 校長 寺岡 正裕
 問い合わせ先 事務局総務 農場長 喜多村 晴幸

〔第1日〕

◎ 開 会 式 (13時00分～13時40分)

- 次第 1 開式のことば
2 農場協会歌斉唱
3 主催者あいさつ
4 来賓祝辞
5 来賓紹介
6 祝電披露
7 農業教育功労者表彰
8 閉式のことば

◎ 分 科 会 (14時00分～17時00分)

- 次第 1 進行について
2 自己紹介
3 研究発表(各20分×3)
4 質疑応答
5 研究協議
6 指導講評

◎ 教育懇談会 (18時00分～20時00分)

〔第2日〕

◎ 総 会 (9時00分～10時15分)

- 次第 1 開会のことば
2 議長団選出
3 議 事 (1)平成30年度事業並びに決算報告
(2)平成31年度役員紹介
(3)平成31年度事業計画並びに予算議決
(4)その他
4 農場協会本部情勢報告
5 閉会のことば

◎ 農林水産省 情勢報告 (10時15分～10時35分)

◎ 講 演 (10時40分～12時00分)

◎ 講 評 (13時00分～13時50分)

◎ 閉 会 式 (14時00分～14時30分)

- 次第 1 開式のことば
2 主催者あいさつ
3 次年度開催県あいさつ
4 閉式のことば

◎ 参 加 費 等

・参加費(資料代)	4,000円	・懇親会費	8,000円
・宿泊費	8,500円	・昼食代	1,400円
		合 計	21,900円

◎ そ の 他

- ・会場駐車場は有料(宿泊者は割引あり)となります。収容台数は多くありません。自家用車の利用は、乗り合わせでお願いします。できるだけ公共機関をご利用ください。

大会テーマ

農による学びで人をつくる

～農業教育で未来を担う多様な生徒をどう育てるのか～

趣意書

農による学びで多様な生徒をどのように育てるのか。そのために本大会は、生徒の成長や変容にフォーカスをあてた、生徒を育てる農業教育のあり方を深める場としたい。そして各学校での成功事例だけでなく、試行錯誤や失敗事例、問題や課題からも学びの情報を共有し研鑽を積む場としたい。

「水都」大阪は、かつて多くの水路や湿地をいかして発達した交通網で、中心地は一大商業都市として栄え、それらの大消費地を支えるため郊外には一面の田園風景が広がり農業も盛んに行われていた。しかし現在は、都市化によりその面影を見つけることは難しい。私たちは古来より里山などの自然の中で動物や植物など多くの生命と共存し、また人同士も協調して暮らしていくことで、ヒトとしての生きていくために必要な大切な多くのことを肌にしみこませて身に付けてきた。しかし、現在それらの多くが高度に進歩した科学技術社会と二極化する都市化の犠牲になっているといっても過言ではない。しかし、これらの課題を解決方法の一つとして、これからの新しい農業教育が大きな役割を担っていると考える。農による学びには、ヒトを再生し、人をつくる力がある。

農業高校が担う役割が、後継者育成から様々な農業関連産業従事者の育成、さらには生物を活用した新しい学びの場と言われてから久しい。しかし、これからは次のことが求められる。前者は、継承と革新、つまり伝統文化を守りつつ、高齢化の社会構造の中で産業として持続可能でかつ国際競争力を持った農業、具体的には技術革新による今までにない生命工学やIoTやAIを活用したスマート農業などと呼ばれる高度な技術を持った新しい産業としての農業を担うこと。

そして後者は、さらに農のもつ本来の力を見つめなおした農業教育、つまり生命教育であり産業教育であり文化教育である。このことは、農場を教材とした人づくりであり、農業というものづくりによる人づくりである。

農業は国の礎をつくる産業であり、日本文化そのものである。安全で安心な生産現場、そこで生産される安全で安心な食、そして環境と文化が持続し保全され、自然と共存し、私たちが豊かに暮らしていくことができる社会をつくる。これらの大きな役割が農業にはある。さらに、これからは新しい強い農業が必要である。そして、何よりこれらを支える社会で求められる人材を育成、つまり日本の未来を担う人材を育成することが農業教育に求められる。そして、この人材育成はすべての産業で活躍できる人材を意味する。それは、広い視野とシームレスな観点を持ち、継承と革新、問題解決能力、社会性、専門的かつ総合的な能力を持った人材である。

農林水産省は、これら求める人材を「経営ができる担い手」としている。文部科学省は、この人材育成の手法として、「主体的で対話的な深い学びの観点からの学習」を次期学習指導要領に示した。しかし、これは従来から農業高校で実践されてきているプロジェクト学習をただ継続すればよいということではなく、大切なことは、生徒の成長が目的であり、その手段として様々な取組みがあるということ。つまり調査研究や実験実習活動等の実績や成果が求められるのではなく、あくまでもその活動を通じた学びで生徒がどう成長したかが大切であり、その変容を見極め、そのための授業やプロジェクト、カリキュラムや農場運営といった農をいかした積極的な仕掛けと仕組みづくりを我々は研鑽する必要がある。

農による学びで人をつくるために、そして多様な生徒をそれぞれ育てるために大切なことは、生徒個別指導の観点で、多様な生徒に対応した多様な目標とその指導である。農のもつ本来の力、さらなる可能性、これらを見つめなおした農業教育によって、未来を担う多様な生徒をそれぞれどのように育てるか。本大会は、そのことについて参加者だけでなく近東支部全体で情報を共有し、未来に繋がる我々の研鑽の場となる大会としたい。

分科会の構成と課題テーマ

分科会	部門	内容概略	司会	指導助言	発表
1	科目 研究	栽培・飼育および流通系科目における教育実践について	滋賀	滋賀・和歌山	大阪・奈良・滋賀
2		食品加工系科目における教育実践について	岐阜	岐阜・兵庫	三重・岐阜
3		環境・ヒューマンサービス系科目における教育実践について	京都	京都・大阪	愛知・兵庫・京都
4	農業 教育 課題	農業教育における技術の継承と革新について	奈良	奈良・三重	滋賀・大阪・奈良
5		生徒を育む農場運営について	和歌山	和歌山・愛知	岐阜・三重・和歌山
6		学校農業クラブ活動における取組について	兵庫	兵庫・滋賀	京都・愛知・兵庫

第1分科会

司会	滋賀	指導助言	滋賀・和歌山	発表者	大阪・奈良・滋賀
----	----	------	--------	-----	----------

○ 資料作成様式

分科会	第1	課題テーマ	栽培・飼育および流通系科目における教育実践について			
府県名		学校名		職名		氏名

事前研究の要点 ※下記の番号は記載優先順位とお考え下さい。この順番で参加資料を作成するということではありません。

- 1 取組によって、どのように生徒が成長（変容）したか（つけさせたい力がどのようについたか）
- 2 習熟度別（上位・中位・下位、全体等）及び個別指導の観点からの実践事例
- 3 成功事例だけでなく、試行錯誤や失敗事例、課題や問題からも学びの情報を共有できる実践事例
- 4 所属学科（コース・類型）の教育目標
- 5 担当校の教育課程における栽培・飼育および流通系科目の位置づけならびに役割
- 6 栽培・飼育・流通系科目において地域資源を活用した農業教育の取組事例や教育効果について
- 7 科目を効果的に展開するうえでの課題ならびに工夫

○ 討議要旨

本分科会では、各校における地域資源を活用した農業教育活動の取組やその成果と課題について、実践事例をもとに、各科目の目標に向けた展開の工夫や効果的なあり方について研究協議する。

対象科目：農業と環境、課題研究、総合実習、作物、野菜、果樹、草花、畜産、農業経営、農業機械、植物バイテクノロジー、動物バイテクノロジー、食品流通、学校設定科目など

○ 各府県、学校において取組む内容が異なります。上記の項目をすべて網羅しなくても結構です。発表者、参加者の実情に応じ教育課程での位置づけを考慮した資料の構成をお願いします。

第2分科会

司会	岐阜	指導助言	岐阜・兵庫山	発表者	三重・岐阜
----	----	------	--------	-----	-------

○ 資料作成様式

分科会	第2	課題テーマ	食品加工系科目における教育実践について			
府県名		学校名		職名		氏名

事前研究の要点 ※下記の番号は記載優先順位とお考え下さい。この順番で参加資料を作成するということではありません。

- 1 取組によって、どのように生徒が成長（変容）したか（つけさせたい力がどのようについたか）
- 2 習熟度別（上位・中位・下位、全体等）及び個別指導の観点からの実践事例
- 3 成功事例だけでなく、試行錯誤や失敗事例、課題や問題からも学びの情報を共有できる実践事例
- 4 所属学科（コース・類型）の教育目標
- 5 担当校の教育課程における食品加工系科目の位置づけならびに役割
- 6 食品加工系科目において地域資源を活用した農業教育の取組事例や教育効果について
- 7 科目を効果的に展開するうえでの課題ならびに工夫

○ 討議要旨

本分科会では、各校における地域資源を活用した農業教育活動の取組やその成果と課題について、実践事例をもとに、各科目の目標に向けた展開の工夫や効果的なあり方について研究協議する。

対象科目：課題研究、総合実習、食品製造、食品化学、食品流通、微生物利用、学校設定科目など

○ 各府県、学校において取組む内容が異なります。上記の項目をすべて網羅しなくても結構です。発表者、参加者の実情に応じ教育課程での位置づけを考慮した資料の構成をお願いします。

第3分科会

司会	京都	指導助言	京都・大阪	発表者	愛知・兵庫・京都
----	----	------	-------	-----	----------

○ 資料作成様式

分科会	第3	課題テーマ	環境・ヒューマンサービス系科目における教育実践について			
府県名		学校名		職名		氏名

事前研究の要点 ※下記の番号は記載優先順位とお考え下さい。この順番で参加資料を作成するということではありません。

- 1 取組によって、どのように生徒が成長（変容）したか（つけさせたい力がどのようについたか）
- 2 習熟度別（上位・中位・下位、全体等）及び個別指導の観点からの実践事例
- 3 成功事例だけでなく、試行錯誤や失敗事例、課題や問題からも学びの情報を共有できる実践事例
- 4 所属学科（コース・類型）の教育目標
- 5 担当校の教育課程における環境・ヒューマンサービス系科目の位置づけならびに役割
- 6 環境・ヒューマンサービス系科目において地域資源を活用した農業教育の取組事例や教育効果について
- 7 科目を効果的に展開するうえでの課題ならびに工夫

○ 討議要旨

本分科会では、各校における地域資源を活用した農業教育活動の取組やその成果と課題について、実践事例をもとに、各科目の目標に向けた展開の工夫や効果的なあり方について研究協議する。

対象科目：農業と環境、課題研究、総合実習、森林科学、森林経営、林産物利用、農業土木設計、農業土木施工、水循環、造園計画、造園技術、環境緑化材料、測量、生物活用、グリーンライフ、学校設定科目など

- 各府県、学校において取組む内容が異なります。上記の項目をすべて網羅しなくても結構です。発表者、参加者の実情に応じ教育課程での位置づけを考慮した資料の構成をお願いします。

第4分科会

司会	奈良	指導助言	奈良・三重	発表者	滋賀・大阪・奈良
----	----	------	-------	-----	----------

○ 資料作成様式

分科会	第4	課題テーマ	農業教育における技術の継承と革新について			
府県名		学校名		職名		氏名

事前研究の要点 ※下記の番号は記載優先順位とお考え下さい。この順番で参加資料を作成するということではありません。

- 1 取組によって、どのように生徒が成長（変容）したか（つけさせたい力がどのようについたか）
- 2 習熟度別（上位・中位・下位、全体等）及び個別指導の観点からの実践事例
- 3 成功事例だけでなく、試行錯誤や失敗事例、課題や問題からも学びの情報を共有できる実践事例
- 4 取組の実践内容または計画
- 5 農業教育における栽培・飼育・教育技術の継承方法や組織的運営について
- 6 先進的農業技術の導入による教育効果とその課題について
- 7 技術の継承と先進農業技術の教育実践における課題ならびに工夫について

○ 討議要旨

本分科会では、農業教育に長年携わってきた熟練教職員が数多く退職される時期を迎えるなかで、培われた農業教育の技法を的確に伝承し、若い教職員へ発展的に継承するために取り組む各校の効果的な事例を報告し、方策や学校が抱える課題について情報交換を行う。また、先進農業技術の実践を通じて生徒たちの可能性を引き出す新たな挑戦と事例を研究協議する。

- 各府県、学校において取組む内容が異なります。上記の項目をすべて網羅しなくても結構です。発表者、参加者の実情に応じ教育課程での位置づけを考慮した資料の構成をお願いします。

第5分科会

司会	和歌山	指導助言	和歌山・愛知	発表者	岐阜・三重・和歌山
----	-----	------	--------	-----	-----------

○ 資料作成様式

分科会	第5	課題テーマ	生徒を育む農場運営について			
府県名		学校名		職名		氏名

事前研究の要点 ※下記の番号は記載優先順位とお考え下さい。この順番で参加資料を作成するということではありません。

- 1 生徒を育てる観点からみた教育課程における教材としての農場運営における工夫と課題
- 2 習熟度別（上位・中位・下位、全体等）及び個別指導の観点からの実践事例
- 3 成功事例だけでなく、試行錯誤や失敗事例、課題や問題からも学びの情報を共有できる実践事例
- 4 取組によって、どのように生徒が成長（変容）したか（つけさせたい力がどのようについたか）
- 5 先進技術に対応した農場運営の取組事例または計画および課題
- 6 先進農家や企業などと連携した魅力ある農場運営事例およびその工夫と効果および課題
- 7 環境保全や生物多様性に配慮した新しい時代の農場基盤整備および施設・設備の工夫と課題

○ 討議要旨

本分科会では、新たに普及する農業技術や栽培・飼育品種に対応した新しい時代の農場運営、環境に配慮した農場基盤整備および施設・設備の工夫と各校がかかえる課題について、実践事例と今後の実践計画をもとに研究協議する。

- 各府県、学校において取組む内容が異なります。上記の項目をすべて網羅しなくても結構です。発表者、参加者の実情に応じ教育課程での位置づけを考慮した資料の構成をお願いします。

第6分科会

司会	兵庫	指導助言	兵庫・滋賀	発表者	京都・愛知・兵庫
----	----	------	-------	-----	----------

○ 資料作成様式

分科会	第6	課題テーマ	学校農業クラブ活動における取組について			
府県名		学校名		職名		氏名

事前研究の要点 ※下記の番号は記載優先順位とお考え下さい。この順番で参加資料を作成するということではありません。

- 1 取組によって、どのように生徒が成長（変容）したか（つけさせたい力がどのようについたか）
- 2 習熟度別（上位・中位・下位、全体等）及び個別指導の観点からの実践事例
- 3 成功事例だけでなく、試行錯誤や失敗事例、課題や問題からも学びの情報を共有できる実践事例
- 4 学校農業クラブ各種発表・競技における効果的な取組およびその成果と課題
- 5 地域連携による効果的な学校農業クラブ活動における取組およびその成果と課題
- 6 ボランティアや地域行事など学校農業クラブ活動における効果的な取組およびその成果と課題
- 7 多様な生徒を育てる学校農業クラブ活動の試行錯誤とその成果と課題

○ 討議要旨

本分科会では、学校農業クラブ活動の中心となる各種発表や競技をはじめ、行事や校内・校外での学校農業クラブ活動において、多様な生徒に対応したそれぞれの目標設定や活動とその成果と課題、また効果的な地域連携活動の推進や工夫、課題について情報交換を行う。

- 各府県、学校において取組む内容が異なります。上記の項目をすべて網羅しなくても結構です。発表者、参加者の実情に応じ教育課程での位置づけを考慮した資料の構成をお願いします。

< 令和元（2019）年度 近東支部大会 参考資料 >

○ 主な変更点（内容） 分科会について

目的

分科会の活性化

参加分科会以外の他の参加者資料の情報を共有しスキルアップをめざす

参加者が分科会以外に懇親会やその他の機会での他の参加者との情報交換に活かす

大会参加者以外にも情報を共有することで近東全体のスキルアップをめざす

内容

1 参加者資料を発表者と同様に事前にデータで提出（冊子に掲載して配付）

* 提出期限：発表資料→6月14日（金）、参加者資料→6月28日（金） ※詳細は別紙参照

2 当日に印刷した参加者資料の持参は不要

☆ 備考

参加希望者は、早い目に希望分科会を決めて、資料を事前に作成しておいてください。

※ 協議

- ・ 参加者資料を HP にアップすることは、次年度実施の結果もふまえて継続審議とする。
- ・ 省力化の観点から予算的に可能であれば業者委託を検討する。

<参考>

○ 参加者資料（発表者資料も同様）

それぞれの教員の観点で実践事例をまとめる ⇄ 共有する ⇄ スキルアップ

※ ポイント

1 「取組によって、どのように生徒が成長（変容）したか」を示す

（何ができるようになったか、つけさせたい力がどのようについたか、あるいはつかなかったのか）

- ・ 様々な授業（取組み、プロジェクト学習など）を報告するだけ → 改善が必要
- ・ 取組によって生徒に付けさせたい力（目標）を明確にし、実施した結果どのように生徒が変容したかを述べる。また、その結果について考察し、次につなげる点を考え、さらに実践していく。
- ・ ティームティーチングであっても、それぞれ教員個別の観点でのべる。

2 習熟度別（上位・中位・下位、全体等）及び個別指導の観点からの実践事例

- ・ それぞれの習熟度の生徒たちをそれぞれどのように育てるか、という観点での取組みを報告
例：全体を上げるための全体への仕掛け、その中で上位を引っ張る+αの仕掛け、さらにボトムアップのために下位層に寄り添った仕掛け、それぞれをフォードバックさせた全体を成長させる仕掛け などの報告
- ・ ただ漠然とこんなことを実施した等だけの報告 → 改善が必要
⇄ どのような生徒（習熟度別、個別指導の観点）に、どのように仕掛けるかを明確にする

3 成功事例だけでなく、試行錯誤や失敗事例、課題や問題からも学びの情報を共有できる実践事例

- ・ 研究や実験自体が失敗でも、その学びを通じて生徒が成長するようにつなげることが大切
- ・ 試行錯誤や課題など、その原因となる背景や要因を総合的に考察し、課題解決に向けて取組（授業や農場などの仕掛けや仕組み）を改善してことが大切

☆実践事例は、上記すべてを必ずしも入れなくてもよい。1～2つに絞って記載可能です。

令和元(2019)年度全国高等学校農場協会近東支部大会
近畿・東海地区高等学校農業教育研究大会

参加申込要項

1 申込要項

- ① 参加申込書に必要事項を入力し、ファイル名を「府県名—学校名」に変更して大会事務局まで電子メールに添付して提出してください。
書式エクセルデータ「ファイル名：申込書 2019 (〇〇県—〇〇高)」は、各府県近東理事に事務局より電子メールで送りますので各校へ案内おねがいします。
また、近日中に農芸高 HP に DL 可能な状態でアップ予定ですので、ご活用ください。
なお、申込時に注意事項をよく読んで確認してください。

【申込先】大会事務局

大阪府立農芸高等学校 喜多村 晴幸

E-mail : kintou2019@gmail.com

☆ 申込締切 2019年6月14日(金)

- ② 申込メールを受けた後、1週間以内に返信メールを送ります。もし、返事がない場合はエラーの可能性があるので、お手数ですが再送信をお願いします。

2 参加費（資料代）・宿泊費等のお振込み

- ① 参加に関する費用（参加費、宿泊費、教育懇談会費、2日目昼食）についてのお振込みは、下記振込先に、参加各校でまとめて一括で振込してください。
なお、振込手数料は送金者負担をお願いします。

【振込先】

銀行名 : 株式会社ゆうちょ銀行

名義 : 全国高等学校農場協会近東支部 (ゼンコクオウトウカクコウノウジョウキョウカイケントウブ)

記号 : 14060

番号 : 73644371

<他銀行からの振込受取口座>

店名 : 四〇八 (読み:ヨンゼロハチ)

店番 : 408

預金種目 : 普通預金

口座番号 : 7364437

※ 領収書に関して

⇨ 大会当日受付時に、個人あての領収書を渡します。

- ② 費用の振込に関して、次に該当する場合は、事前に事務局まで E-mail でご連絡下さい。

1) 参加費（資料代）とそれ以外の費用を2回に分けて別々で振り込む場合

例：参加費は、学校事務より振込、その他は各校代表（農場長）が振込

2) 参加費（資料代）に関して、公費による支払いの為、請求書が必要な場合

※ 公費の場合でも請求書の要不要は、学校により異なりますのでご注意ください

- ③ ホテルアウリーナ大阪では、共済組合員の参加者は、宿泊補助を受けることができる場合があります。宿泊補助の利用を希望する場合は、事前に各府県の共済組合に確認して、補助申請用紙を事前に作成して当日持参ください（注意事項参照）。

チェックイン時（1日目 17:00～17:50）、受付カウンター（1Fロビー）で必要書類を提出して手続きを行ってください。

チェックアウト時（2日目 7:30～8:50）、補助額を受け取ってください。

注意事項

- ・公費で宿泊費が補助されていない場合に限る。
 - * 詳しくは、各府県共済組合に確認してください
- ・補助額は各府県により異なります。
 - * 詳しくは、各府県共済組合に確認してください

- ④ ホテルアウリーナ大阪の宿泊者の駐車場利用について（無料駐車場はございません）

1) 専用提携駐車場（ホテル西側。周囲に駐車場が多く存在するので間違わないように注意）に駐車した場合、利用補助あり。

⇒ チェックイン時に、1F受付にて駐車券を提示、優待券を受け取る。

※ 優待駐車料金 駐車から24時間以内 1,000円（過ぎると+1,000円）

3 振込確認

受付漏れを防止するために、お手数ですが参加費等の振込後に、領収書のコピーを速やかに事務局まで FAX または電子メールで提出してください。

振込確認用 FAX 送信票の書式ワードデータ「振込確認 2019（〇〇県—〇〇高）」は各県近東理事に事務局より送ります。各校へ案内してください。

また、近日中に農芸高 HP に DL 可能な状態でアップ予定ですので、ご活用ください。

【送付先】大会事務局

大阪府立農芸高等学校 喜多村 晴幸

FAX: 072-361-0684

E-mail: kintou2019@gmail.com

- ※ 電子メールの場合は、スキャンして PDF または JPEG のデータで送信ください。
ファイル名は、「府県名—学校名」に変更して提出してください。

